

令和7年度 第1回（第7期第7回）新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和7年6月23日（月）午後3時～5時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A

【出席者】 委員：植田、遠山、長山、則竹、捧、笠井、富田、平山、伊藤、篠崎、塩月、各委員
事務局：村上文化観光産業部長、内野産業振興課長、黒川産業振興係長、前田産業振興主査、齋藤産業振興主査、山本主任

【欠席者】 なし

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

(1) 産業振興会議第7期報告書（案）について

資料1に基づき事務局より説明をした後、各委員から意見を求めた。主な発言内容については以下のとおり。

（主な発言内容）

- ・「相談員の相談力を強化する必要があります」と記載されているが、個々の相談員の力量をどう引き出していくのか、スキルアップしてもらうためにはどうしたらいいのかということをもっと言及してもよい。
- ・相談支援の認知度向上について、記載にある「名称の変更」も確かに必要だが、なぜこれまでの相談支援の認知度がなかったのかという点をもう少し言及してもよいと思う。
- ・創業支援に対する問題意識について、第6期報告書では創業する人の裾野の広がりや多様性を挙げたが、第7期報告書でも同様の記載を入れたほうがよい。
- ・産業振興会議での議論が基本的にはよく反映されており、この中で言及されている問題や課題点が解決する方向に確実に向かっていけばよいと思う。
- ・新宿区の特徴として、大学の集積地であり、教育機関と連携していく手段としてのスタートアップ支援が強調されているように感じたが、観光面や外国人が多い等の幅広い発展に向けての可能性についても記載した方がよい。
- ・相談強化のみで企業の成長曲線が上がるわけではないので、分析し、成功事例をレポートとして公表することが大事。起業だけではなく、漠然と社長になりたい学生の学びとなるような新しい発展の仕方につながると思う。
- ・高田馬場創業支援センターの利用者実績について分析した方がよい。
- ・掲載している創業支援体制のイメージがスタートアップに寄っているため、スモールビジネスと分けて掲載した方がよい。
- ・なぜ新宿でスタートアップ支援をしなければならないのか。スタートアップは本来社会課題を解決するものであり、その社会課題と新宿区との紐づけ、例としてにぎわいの創出等のようなところから今後議論を進めていければよいと思う。
- ・伴走支援で社長を育てるという視点が必要だと思う。
- ・地域を活性化させていく特色を考えるならば、できることとして、自発的に色々なアイデアを持つまでに至らないレベルの方に向けてフォローアップをしながら、創業の垣根を下げることで新宿らしさを打ち出していくことがよいと思う。

- ・新宿は開業率が高い方であるため、その魅力を新宿らしさの一つとして、創業支援のストーリーにつなげることもよいと思う。
- ・経営学の中で、別のものを両方追求することが大事といった言われ方があるように、スタートアップとソーシャルビジネスの両方をきちんと実施することをサブタイトルにすると区民にも伝わりやすいのでは。
- ・新宿版スタートアップみたいなことについては、国とは理由が違う地域特性を生かした貢献の仕方を今後の議論としていく。

(2) 経営サポート事業のアドバイザー（専門家）選定について
資料2に基づき事務局より説明をした。